

「柏崎の水」

常盤台 ^{ごてん} 御殿山鉾泉

御殿山鉾泉は剣野三島神社近くにあった鉾泉である。三島の湯とも呼ばれたといわれ、「柏崎文庫」には「三嶋の井」と見える。また「枇杷島村郷土誌」には「三嶋ノ鉾泉八劔野字道称橋ニアリ菓泉ニシテ今ヨリ三百年前宇佐美氏ノ発見ニカヽルトノ説ナリ」とある。泉質は炭酸泉で、大正時代には松之山のサイダー会社がこの水をわざわざ運んで使ったという。

御殿山とは、現在の剣野小学校後方、常盤台の小高い場所をいい、かつてその一帯は、戊辰戦争のとき私財を投げうって柏崎を戦火から救った星野藤兵衛が所有していた。日本近海に外国の艦船が出没した幕末、海から見通せる大久保陣屋では砲撃を受ける恐れがあったため、万一に備えこの場所に立退所が作られた。立退所は藩主が来柏の際に利用する屋敷であるので、周辺の人々に「御殿」と呼ばれた。(また、御殿がある山なので御殿山と呼ばれた。)しかし実際に藩主が宿泊することはなく、戊辰戦争時には山県有朋ら官軍参謀の会議所になった。明治5年に御殿山の土地と建物が星野藤兵衛の所有となると、藤兵衛は御殿を別荘とし、さらに2000両もの大金を投じて大庭園を築いた。その庭園には楓の木がたくさん植えられ「黄葉園」と名づけられた。なお、藤兵衛は、御殿が作られる前から、この山に柏崎の上流町人や文人を招き、観月の宴などを催している。



昭和11年の御殿山花見

柏崎市史資料集 近現代篇3下 所収写真



柏崎御殿山黄葉園後天樓〔浴館〕

当館所蔵 小竹コレクション絵葉書より

その後、御殿山は星野家の手を離れ、大正3年に料亭「後天楼」が開業する。ここでは前述の鉾泉を、湧き出している場所から山の上の建物までポンプでくみ上げ、浴用に供していた。鉾泉が湧き出ている場所は定かではないが、古老によれば現在のヨコヤマ理容室の付近とのことである。

御殿山は桜の名所としても柏崎町民に親しまれ、水源地で花見ができるようになるまでは多くの花見客で賑わった。最盛期には、後天楼から線路までぼんぼりが並べられ、電飾の明かりが山の中でずいぶん目立っていたという。また花見ダンゴも良く売れ、1日に7俵もの米が使われたこともあった。

参考にした本

- 「柏崎市文化財 御殿山旧跡について」岡村康久 著
- 「御殿山物語」山田良平 著 (柏崎日報 S49.8~9 掲載記事)
- 「わたしたちの剣野」剣野公民館 (224 K ケ)
- 「新潟県温泉誌」新潟県温泉協会 (290 N ヲ)
- 「柏崎市の文化財とその周辺」柏崎市立博物館 (700 K ノ)
- 「柏崎市史資料集 民俗篇」(224 K ハ)